

2025年6月2日

監査役会の実効性向上の取り組み

オムロン株式会社

1. 監査役会の実効性向上の取り組みの概要

監査役会は、ステークホルダーの負託に応え、持続的な企業価値の向上を実現するための監査活動はどうあるべきかの議論を重ねながら、監査を実施しています。取締役会とは自由闊達に議論を行いコーポレート・ガバナンス機能の向上に寄与してまいりました。

また監査活動においては、準拠性監査、リスクベース・内部統制監査を深化させるとともに、執行部門による経営課題への取り組みも積極的に監査の対象範囲としました。

2. 2024年度 監査役会の実効性評価

監査役会は、重点監査事項を中心に監査を実施し、その活動について、より多角的・客観的な視点から実効性評価を行いました。

2-1. 2024年度 監査役会重点監査事項

当事業年度において監査役会は「構造改革の進捗とリスクへの対応」「中長期経営課題への対応」「グローバル・グループ・ガバナンス」を重点監査事項と位置づけ、監査を行いました。

2-2. 2024年度 監査役会実効性評価の方法

2024年度は、「監査役への質問票」(*) および「企業価値向上貢献度評価シート」ならびに「2024年度監査実施報告」を用い実効性評価を行いました。また取締役からの監査役(会)への意見は今年も受領し、参考にしました。

(*)2024年度監査役会の課題に対して実施した活動を監査役会で振り返り評価しました。

2-3. 2024年度 監査役会実効性評価の結果と課題

2024年度監査役会の課題	2024年度実効性評価結果	2025年度監査役会の課題
2023年度に提言した経営課題に対する執行部門での対応の進捗をフォローし、取締役会でも共有する。	経営課題について、執行部門による対応状況を確認したうえで、その解決に向けて取締役会で議論・深掘し、認識を共有した。	構造改革と中長期の成長戦略を実行する中で、現場の変革（特に顧客起点に立った組織文化）の状況を『（無駄を）やめる』・『（迅速に）決める』等の観点で確認する。
経営の構造改革を進めているオムロンとして、目指す内部監査について監査役とCEOとの議論を深め提言していく。	内部監査を含めた内部統制システムのあり方をCEOと議論し、現場の内部統制強化が重要との認識で一致した。	内部統制システムに関わる執行部門の役割・責任の明確化など組織体制強化の進捗と、執行部門の運用状況および内部統制システムの実効性を確認する。

当社監査役会に関する情報は、以下のウェブサイトをご参照ください。

<https://www.omron.com/jp/ja/about/corporate/governance/chart/>